

価値観の説明1

CD	価値観
1321	原則性価値観
1301	生存性価値観
1302	風土性価値観
1303	習慣性価値観
1304	正統性価値観
1322	形成思考価値観
1305	知識体系価値観
1306	心情価値観
1307	目的定立価値観
1308	形態価値観
1323	使命性価値観
1309	生涯使命価値観
1310	業務使命価値観
1311	自己犠牲価値観

価値観は、思考、行動の領域に大きく影響する。個々の重要視する範囲を確定する。価値観は、一度、形作られると、簡単には変化しない。判断を含めて複数の価値観で構成される。

《原則性価値観》生存目的レベル・本能的、先天的に持ち続けてきた価値観。自らが存在し続けるための要素、条件を示す。原則性価値観は生存の原則である。破壊されにくい。変化、転換は存在し、生存の原則性を一気に変える革新はあり得る。

●生存性価値観—生きるための要素、条件が生存性価値観になる。「生き続ける」と「いかに生きるか」、「何故に生きなければならないか」は自らの知識と思考によって、要素、条件が変化する。「いかに生きるか」等の解が生存性価値観になる。人によって生存性価値観が異なってくる。すべての人間が同じ生存性価値観を持っているとする方が不自然である。

●風土性価値観—地域に根付いていた文化に基づいた価値観。風土とする内容は、その地域の気候、自然、地形等を根ざし、その地域で育まれた文化を示す。

科学が発展する以前では、風土性価値観は、絶対的であった。考え方や行動条件がその地域で限定される。現在では、科学の力、エネルギーを活用できて、風土としての特徴が薄められつつある。しかし、地域の慣習、伝統を受け継いでいる。その要素、材料、条件によって風土性価値観が設定される。地方から都会へと移動し、生まれ育ったところの慣習、縛りが消えつつある。新たに都会の風土が形成されつつある。

●習慣性価値観—日常生活における自らの習慣・自らが培ってきた価値観。習慣性の軸は、安心・安全である。いつもと同じ、いつものように、であれば、問題が起こりにくい。まず、自らの活動地盤を形成する。そこに、習慣性が生まれてくる。人間が、安心できる形態、要素、条件等々が習慣性価値観を形成する。イノベーションを嫌う性質がある。確証バイアスがかりやすい要素になる。

●正統性価値観—国家または組織(公的機関、企業、NPO、組合、等々)を枠組みとし、これらが存続するために必要とする制度、役割、義務と責任に関わる要素及び条件である。国家または組織の価値観と一致または重なる所がなければ、個は存続しにくい。最も強いバイアスがかりやすい。既存の正統性に強く影響されると、活動や思考が硬直する。従って、正統性を認識しつつも、社会環境を改善させていく正統性を必要とする。既存の正統性は常に真理における正当性へと進んでいく。

《形成思考価値観》原則性価値観を成長・発展させる要素を持つ。自己ではなく他(他人、社会、自然等)に軸足を置く。

●知識体系価値観—既存に存在する知識・技術を学習し、自らの経験、思考を、既存知識に組み込み、体系化する要素及び思考とその工程を示す。自らの経験と思考を取り込んで、新たな知識体系を作りだしていくためのプロセスと成果である。

●心情価値観—社会における人間関係での感動または感動に準じるものを軸とする。平和、平等、自由に関わる、平穏も含まれる。他と共に、感動、平穏、快適さを分かち合える要素、条件が含まれる。

●目的定立価値観—目的方向は、改善、革新、秩序、調和、協働等であり、これらの中心に置かれるのは革新である。可能な限り進歩に向けての目的形成が求められる。目的達成に向けての設計、プロセス、戦略、戦術を構成する要素、条件を示す。

●形態価値感—美は秩序とバランス、形態を元にする。形式美を軸とする。形式美は存在するものだけでなく、形から作り出される明暗、陰影、想像、利便性が含まれる。これらを形成する要素、条件を示す。結果として、美を作りだされる素材も含まれる。

価値観の説明2

《形成思考価値観》原則性価値観を成長・発展させる要素を持つ。自己ではなく他(他人、社会、自然等)に軸足を置く。

●知識体系価値観—既存に存在する知識・技術を学習し、自らの経験、思考を、既存知識に組み込み、体系化する要素及び思考とその工程を示す。自らの経験と思考を取り込んで、新たな知識体系を作りだしていくためのプロセスと成果である。

●心情価値観—社会における人間関係での感動または感動に準じるものを軸とする。平和、平等、自由に関わる、平穩も含まれる。他と共に、感動、平穩、快適さを分かち合える要素、条件が含まれる。

●目的定立価値観—目的方向は、改善、革新、秩序、調和、協働等であり、これらの中心に置かれるのは革新である。可能な限り進歩に向けての目的形成が求められる。目的達成に向けての設計、プロセス、戦略、戦術を構成する要素、条件を示す。

●形態価値感—美は秩序とバランス、形態を元にする。形式美を軸とする。形式美は存在するものだけでなく、形から作り出される明暗、陰影、想像、利便性が含まれる。これらを形成する要素、条件を示す。結果として、美を作りだされる素材も含まれる。

《使命感価値観》使命は自身に向かうのではなく、他(他人、社会、自然等)に向かって、何等かの成果をあげるための思考・活動を示す。

●生涯使命価値観—生涯を通して、同じ目的をもって責務を果たそうとする要素と考え方、および行動を示す。一般的に社会に認知されている職種は医師、教師、芸術家があげられる。一般企業で働く人々も自らの得意を持って社会に働きかけ続けている場合も含まれる。

●業務使命価値観—現代に活動する人々は、組織人であるか、何らかの形で組織活動に参加している。組織を通しての自らの得意をもって社会に向かって責務を果たす行為を示す。

●自己犠牲価値観—自己犠牲とは、自らの生活、もしくは命までも犠牲にしえる状態で責務を果たそうとする考え方、行為である。犠牲の程度が問題になるが、責務を果たすために、活動を維持しなければならない。活動維持のために、多くは寄付、公的資金、外部の設備や制度を活用する。活動に対して、比例する報酬を期待していない。活動の目的は、社会システムから外れた環境にあるものを社会平均と同じ状態にもっていかうとする行為に当たる。